

発行

# 博物館だより

富士吉田市歴史民俗博物館

〒403

山梨県富士吉田市上吉田2288-1

☎ 0555-24-2411

平成6年9月30日



〔親子土器作り教室〕

平成4年の県民意識調査によると、県民の84.7%が生涯何かを学び続けたいと考えているそうです。「生涯学習」という言葉を聞かれたことがある方も多いと思います。博物館の役割は主に資料の収蔵・展示・調査研究・教育普及に分けられますが、なかでも教育普及活動によって皆様に「学ぶ」きっかけや場を提供しています。博物館には博物館でしかできない学習活動があり、例えば今年度、当館では歴史散歩講座や親子土器作り教室などを行いました。これは体験学習と呼ばれるもので、参加者が自ら実行し、考え、学ぶ方法です。体験学習には受け身の学習では得られなかった、自らの五感を通じた発見があるはずです。博物館では今後もこの体験学習を中心とした講座を進めていきます。皆様から当館へのご意見やご要望もお待ちしております。どうぞ、自分達が主体となり参加する場として博物館を利用して下さい。

# 博物館施設のご案内

博物館には付属施設としてエリア内に民家が3棟復元されています。1棟は富士山信仰登山者を受け入れる御師住宅、他の2棟は江戸時代に建てられた農家です。

## 御師住宅

現在も市内上吉田に残る御師宿坊小佐野家住宅（重要文化財）と同家に残された古図をもとに復元された建物です。小佐野家は堀端屋という屋号を持つ御師で、保存がよく、御師宿坊の形態を残している全国的にも数少ない社家の一例といえます。

御師住宅の特徴として、家屋の形状は細長く奥行きがあり、最奥部に神殿が設置されています。また、御師の屋敷の多くは表通りから奥に引っ込んだところに構えられ、そこまでの間に細く長い道が設けられています。これをタツ道と呼び、御師の屋敷構えの特徴となっています。

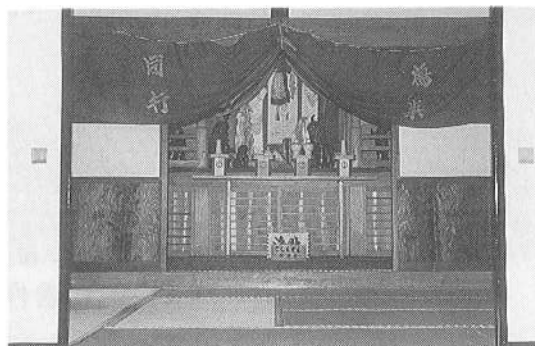
「文久辛酉年（1861）九月吉辰良辰」の記がある家相図が現存しており、昭和51年に国の重要文化財に指定されました。

## 旧宮下家住宅

市内小明見に建っていた木造平屋建・茅葺入母屋造の民家で、江戸時代中頃、宝永4年（1707）の建築と伝えられています。間取りはカギ広間様式の四間取りで、外廻りが閉鎖的な構えをとっており、土間には太い柱が密に配置されています。梁組



〔小佐野家復元住宅〕

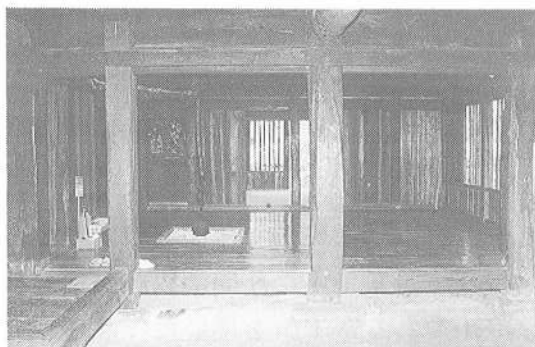


〔下段の間から神殿を望む〕



〔旧宮下家住宅〕

と構法の特徴などから18世紀初頭ないし、それをややさかのぼる時期に建てられたと考えられます。この時期の民家としては構造材や小屋組材・造作材など、ほとんど9割かた残っており、ほぼ完全に復元が可能であったという点で重要な価値が認められ、昭和58年、県の文化財に指定され、平成2年に博物館に移築されました。



〔旧宮下家内部〕

## 旧武藤家住宅

旧武藤家住宅は、木造平屋建・茅葺屋根入母屋造り（カブト造り）の民家です。この民家は後の改造が著しく、当初使われた材木は土間周辺に残されているだけで、建築当初の復元は出来ませんでした。そのため江戸時代末期頃と推定される改築時期のものをもとに復元しました。



〔旧武藤家住宅〕

屋根のカブト造りはこの地方に多く見られた形で、屋根裏で行う養蚕のための採光と通気性を考えて作られています。幾度となく改築・改造された家とはいっても、間取りの型式・土間周囲に太い木材を使用していることや、その柱の数本に平刃・蛤刃の手斧痕が残っていることから江戸時代中期以前の建築と推定されています。



〔旧武藤家内部〕

# 企 画 展

## 第1回企画展

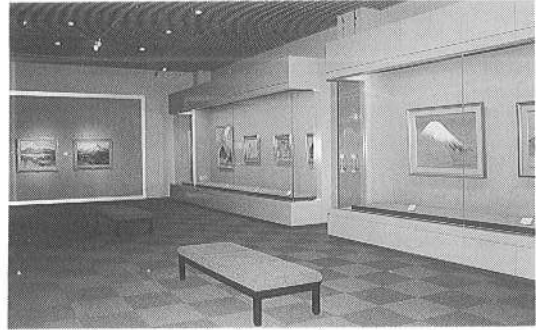
### 富士吉田市収蔵美術品展

## 『富士の彩』平成6年4月15日～6月15日

富士吉田市は市民の文化振興に寄与するための一環として、さまざまな美術品を収集しております。今回の収蔵美術品展では、これらのうちから富士吉田市のシンボルである富士山を描いた作品を紹介しました。

展示室には横山大観の『富士』や増田誠の『富士山』など日本画・洋画あわせて15点が展示され、来館者は様々に描かれた美しい「富士山」を鑑賞されていたようです。

当館では、これからも他の収蔵美術品も随時紹介するように企画していきます。



〔「富士の彩」展示風景〕

## 第2回企画展

## 『吉田の御師』平成6年7月1日～8月31日

第2回企画展『吉田の御師～奉納物を中心として～』を開催いたしました。

古来より富士山は信仰の対象とされており、富士講と呼ばれる信仰組織の確立以降、庶民の富士参詣が盛んに行われるようになりました。御師とはこの信者達を富士山に導き、信者に代わって富士の神霊に祈願する代願者のことです。

今回の企画展は、当館の常設展示テーマのひとつである「富士信仰」をさらに詳しく紹介したもので、富士吉田市の歴史に大きな足跡を残した吉田御師の姿を通して富士信仰の一端を理解していただくことを目的として開催いたしました。

企画展示室内は、「富士信仰と吉田の御師」「御師の信仰」「御師と檀家」「坊のもてなし」「檀家の奉納物」「御師の町」のテーマに分けられ、吉田御師に関する様々な資料が展示されました。

本展は夏休みと重なったこともありなかなかの賑わいを見せ、市民の方々だけでなく旅行で訪れた人も富士の歴史について理解を深めている様子でした。また小中学生達が熱心にメモを取る姿も見られました。



〔木花開耶姫神像〕

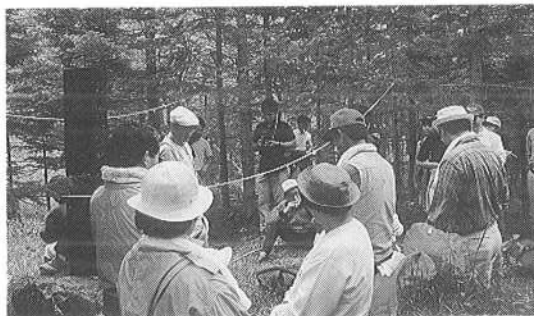
# 博物館講座

## 歴史散歩講座

### 『富士登山道を行く～女人天上～』

6月5日、富士山3合目付近にある「女人天上」を体験登山する講座を開催いたしました。

天候に恵まれたなか、途中に出会う史跡の説明に耳を傾けながら、目的の女人天上をめざしました。



〔女人天上〕

### ～女人天上とは～

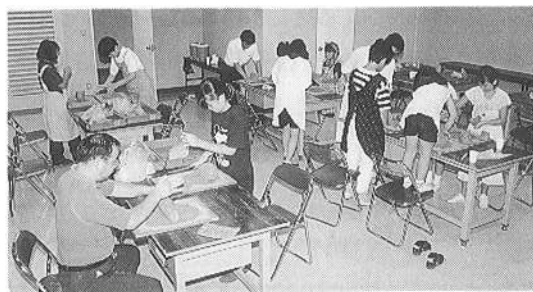
富士山は江戸時代まで女性の登山は禁止されており、唯一60年に一度巡ってくる御縁年に限り四合五勺の御座石までの登山が許され、それ以外の年は二合目御室浅間神社までしか登ることが許されませんでした。そして二合目上には女人禁制の改所があり厳しく取締りがされていました。そこで密かに御室浅間神社から脇道を通り、1km東南の細尾野の丘で富士山を遥拝し、御来迎を拝んだことから、ここが女性の遥拝所として「女人禪定」とされ、一般に「女人天上」と呼ばれるようになりました。

## 体験学習講座

### 『親子土器作り教室』

去る8月7・14・21・28日の毎週日曜日、『親子土器作り教室』を開催しました。この講座は土器作りを通して、親子のふれあいを深めるとともに、縄文時代の人々の生活や技術を学んでいただくためのものです。

第1回目は粘土練り、第2回目は形作りと文様付け、第3回目は磨き、第4回目は野焼きという行程で行いました。参加者は市内池之元遺跡から出土した縄文時代後期の土器をモデルにそれぞれの個性を出しながら素晴らしい作品を作りあげました。



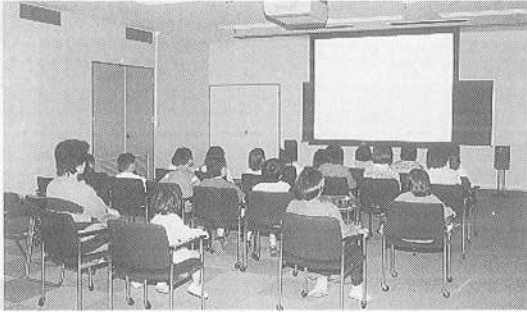
〔熱心に粘土を練る様子〕



〔野焼きの風景〕

# お知らせ

## ●好評 / ビデオ映写会



学校がお休みの毎月第2土曜日、博物館では子供を対象にビデオ映写会を行っています。4月から始めたこの映写会には、毎回多くの子供たちが集まり昔話や民話のアニメを楽しんでいます。毎月この日は普段よりも少しにぎやかな様子です。

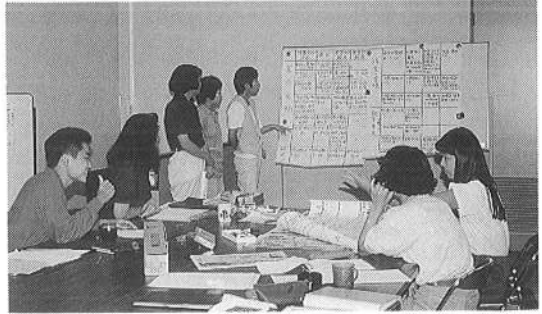
これからも色々なビデオを用意していますので、どうぞお楽しみに！

## 編集後記

8月に行なった土器作り教室で参加者の作品が割れずに出来上がり、ホッとしております。実験に実験を重ね、また多くの方々のご協力のおかげで成功をおさめ、たよりに報告することができました。(FU)

## ●7名の博物館実習生受入れ

8月17日からの2週間、将来学芸員を目指す学生が当館で実習を行いました。8月末とはいえまだまだ暑さが厳しい中、実務処理・土器作り教室の補助といった教育普及活動への参加などの日程を意欲的にこなしていました。



(実習の様子)

## ●御師住宅でお茶会開催

今年度も御師住宅で2回のお茶会が開かれました。7月の日差しの下、緑の中にたたずむ御師の家と夏の着物やゆかた姿の茶人たちはとても涼しげで来館者たちの目をひいていました。

## 博物館利用のご案内

☆上記のようなお茶会・勉強会等で博物館施設(会議室・御師住宅等)を利用されたい方は当館までお問い合わせください。

- 開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)
- 休館日 月曜日(祝日を除く)・祝日の翌日・年末年始
- 観覧料 大人 300円(240円)  
子供 150円(120円) ( )内は20名以上の団体料金